

さと山は光と風のハーモニー



梅ヶ谷トンネル開通

2024.3.16当日(16時頃)

以前青梅と肝要の里を結ぶ道は通り矢尾根の標高約400mの肝要峠を越えていた。肝要の里側からは完成した梅ヶ谷トンネルの西側の沢を詰め850mほど登ったところがその峠である。現在梅ノ木林道が通っているが、そこから青梅側のトンネルの入り口付近まで約1kmを歩いて下った当時の歴史が偲ばれる。

このトンネル建設のキッカケは1994年に青梅市と日の出町が都道促進協議会を立ち上げ、都への要望活動を開始したことに始まる。2017年に掘削を開始。2019年の台風19号では平井川の土手が崩れて道路が寸断され孤立する事態が発生。21年にトンネルが貫通したが、工事が完了するまで約8年間を要した。東京都への要請開始から数えて30年越しの念願の開通となったのである。

このトンネルの完成で人気のあるハイキングコースやつるつる温泉にどのような変化が生じるか期待される。トンネルには大きなカーブがあるので安全運転を心掛けたい。

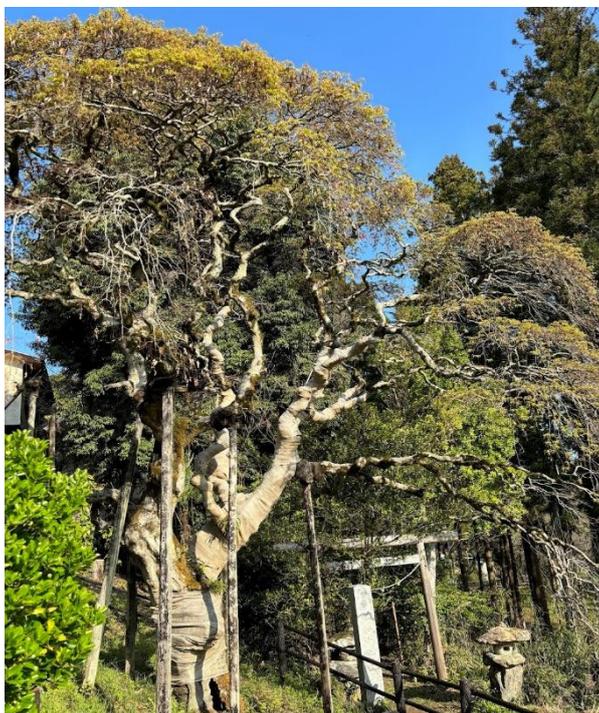
13回目となる日の出山開き式・安全祈願祭

日の出山開き式開催

日の出山開き式・安全祈願祭が4月13日(土)幸神神社で行われました。第1回から第7回まで日の出山の会が主催、第8回から13回までは日の出山開き実行委員会が主催し、日の出町観光協会と日の出町商工会の後援を受けています。

幸神神社について

幸神神社には国の天然記念物の指定を受けた「シダレアカシデ」の大木があります。すぐ近くに鳥居と灯籠があることから幸神神社に詣でた方はこの参道を通って境内に進んで行ったと想像できます。神社は坂道を上がった一段高い所にあり、その右手に神社の開基に言及した石祠が置かれ以下の文字が刻まれています。注)西暦追加「建武三年(1335)山城国出雲路幸神をこの地に勧進してより六百五十年、この年を記念して大鳥居を建立す 昭和六十年三月二十六日 氏子」



国の天然記念物 シダレアカシデ

金比羅山から山抱きの大榎・ 千年の契り杉ハイキング

ガイド 石川 剛

五日市駅朝 8 時、何時もの様に自己紹介、準備体操は登山口でと歩き出す。

小学校卒業まで住んでいた五日市。我が母校五日市小学校の桜はいまだ健在、少し散った花びらが地面を飾り始めていた。登山口へ着き軽く体操をし、登りに備え上着を脱ぐ、もう半袖の人もいる。



子供の頃、琴平神社のお祭りに貰った、小遣いを落としてしょげて歩いたり、地蜂の巣があり遠巻きに通ったり、時には石を投げ込んで逃げたり・・・と思い出す。右に曲がって左に折れ展望台で山桜を前景に、五日市の町を見下ろす。琴平神社で手を合わせたあと、ちょっと先の天狗岩、日本奇岩百景だそう。桜に囲まれて重機が二台音を立てていたがその回りではお花見、ここは紫陽花園への道が通っている。

戻ってガイドを交代して先頭を行って貰う、山抱きの大榎への古い指導票の前で先の行程を説明してくれる。大榎は岩の上に立ち、節くれだった幹が大きく枝を広げている、アニメに出て来て話しかける森の古老のようだ。

少し下り、千年の契り杉に向かい庭先を静かに通して貰う、この道は都道だと言う。千年の契り杉は凄いと言うか生きることは壮絶だと感じた。

五日市駅までの帰り道は花の街道だった。



千年の契りスギ
幹回り7.8m、樹高45mと大きく二本の幹が成長していく過程で再び融合し「H」の形に繋がり、さらに成長を続けている。

(あきる野市深沢)

「私と山との出会い」

ガイド 吉澤 哲

私が山を歩き出したのは六十三歳になってからである。年休消化の無計画な休日に、どういうわけか早々に目が覚めてしまい、ふと思い立って高尾山に行ったのが始まりであった。ウォーキングで少しは鍛えていたつもりだったが、どこか心もとない気分で歩き出したのだった。

にぎやかな頂上にたどり着いてみれば、タオルを搾れるほどの大汗をかいていた。木綿ずくめのカジュアルな服装であったため、十月の頂上を吹き抜ける風で、あっという間に汗冷えを起こしてしまった。ブルブル震えながら早々に頂上を後にしたのだが、心にあった日々積み重なっていたおりのような重いものは消し飛んでいた。爽快な気分であった。その時に私の心のどこかにスイッチが入ったのであろうか。

それからはガイドブックを手に入れ、少しずつ装備を調べ、専ら単独行で奥多摩や秩父等の山々を歩き回っていた。そして、私にとって運命的なハイキングガイドの会との出会いがあり現在に至っている。



高川山より

六十三歳というのは、新しく物事を始めるのにはかなり遅いのかも知れない。しかし、何事も遅過ぎることはないと思っている。何しろ経験がない分、スキルも体力も、いまだに右肩上がりなのだから。

山は四季折々、時々刻々様々に変化をとげて行く。次の山行では、またどんな姿を見せてくれるか楽しみである。

歴史散歩2

うどんとそばについて

安政二年（1855）から文久元年（1861）まで大阪町奉行を務めた久須美佐渡守は「大阪の食べ物は江戸っ子の口に合わないがうどんだけは大いに良い」という事を見聞録に書き残しています。

幕末には「江戸はそば、大阪はうどん」が通り相場になっていましたから、江戸育ちのお奉行様も大阪のうどんのうまさ意外だったのでしょうか。しかし江戸時代の初めは江戸でもうどんが主流でした。それは関東平野の赤土は小麦の生産に合っていて台地で小麦が多く採れた為、菓子屋が副業としてうどんを作り売り出した。価格が安い為庶民は多いにうどんを食べる様になり、江戸の人口が増えるにつれ町中にうどん屋が多くなってきました。

しかし、やがて江戸ではうどんよりそばの人気が高くなり、江戸中期以降はそばの全盛となり、江戸ではおいしいうどんは発達しませんでした。しかし全国的にみてうどんは一般的な食べ物で各地に名物のうどんが登場したのも江戸時代の事です。

江戸時代の髪を洗うシャンプーはうどんのゆで汁に海藻の「ふのり」を溶き熱いうちに髪をもみ洗いすると、うどんとふのりのでんぷんが髪油を吸収して髪のを落とすのです。ゆで汁のない時はふのりとうどん粉を熱湯に溶かして使ったそうです。

今でも青梅の新月と瑞穂町の箱根ヶ崎地方は小麦とそばの産地として有名で昔より「新月小麦と箱根そば」歌に歌われていました。

郷土と民俗芸能 ゆめのまた夢 (P78.79 抜粋)

著者 清水政夫

平成5年（1993）3月31日発行

西多摩近辺で水田を見かけるのはあきる野市、青梅市、八王子市などですが、最も水田風景らしいのが多摩川沿いの八王子市やあきる野市です。昔から小麦栽培が盛んで、うどんを食べていたのは関東ローム層の武蔵野台地が小麦の生産に向いていたからだと思われます。

「友の会」関連行事の紹介

ここでは、令和6年5月から8月にかけての『日の出町ハイキングガイドの会』が主催するハイキングと登山について紹介いたします。

ハイキングは概ね半日程度の里山歩きから始め、月に一回程平日に予定。また、登山についてはハイキングよりも標高差や距離がやや長めで休日に設定してあります。(歩程時間：休憩時間を除くおおよその目安です。)どちらも日の出友の会会員の皆様から、先着順で受付け、定員に達し次第締切ります。早めにお申込みください。令和6年9月以降の計画については日のハイ通信7号(7月頃発行)に掲載予定です。

I. ハイキング(事前申し込み制)

◎ 5/9(木) 日連アルプス

JR 藤野駅前 8:00 集合

コース 藤野駅…金剛山…鉢岡山…日連山…宝山…相模湖駅 (歩程約5時間)

◎ 6/13(木) 高水三山

JR 軍畑駅前 8:20 集合

コース 軍畑駅…高源寺…高水山…岩茸石山…惣岳山…御嶽駅 (歩程約5時間)

◎ 7/25(木) 高川山～天神峠～峯山～大月駅

JR 初狩駅前 8:00 集合

コース 初狩駅…高川山…天神峠…峯山…大月駅 (歩程約5時間)

◎ 8/22(木) 大菩薩嶺

JR 甲斐大和駅前 7:45 集合

コース 甲斐大和駅＝上日川峠…大菩薩峠…雷岩…大菩薩嶺…唐松尾根…上日川峠＝甲斐大和駅 (歩程約5時間) (ハイキングとしては健脚向き)

II. 登山(事前申し込み制)

◎ 5/19(日) サルギ尾根～大岳山(健脚向き)

JR 武蔵五日市駅前 8:10 集合

コース 武蔵五日市駅＝大岳鍾乳洞入口…上高岩山…大岳山…白倉＝武蔵五日市駅 (歩程約7時間)

※…前回(日のハイ通信5号)お知らせしたものと

下山路が変更になっております。

◎ 6/2(日) 名坂峠～棒ノ折山

JR 川井駅前 8:00 集合

コース 川井駅…八桑…名坂峠…黒山…棒ノ折山…奥茶屋…清東橋＝川井駅 (歩程約6時間)

◎ 7/20(土) 百尋ノ滝～川苔山

JR 奥多摩駅前 8:30 集合

コース 奥多摩駅＝川乗橋…細倉橋…百尋ノ滝…川苔山…大根ノ山ノ神…鳩ノ巣駅 (歩程約7時間)

◎ 8/4(日) 石丸峠～牛奥ノ雁ヶ腹摺山 (健脚向き)

JR 甲斐大和駅前 7:45 集合

コース JR 甲斐大和駅前＝石丸峠入口…小金沢山…牛奥ノ雁ヶ腹摺山…すずらん＝JR 甲斐大和駅 (歩程約6.5時間)

III. 申し込み後のキャンセルについて

申し込み締め切り後、催行予定の概ね一週間前迄には、申込者に参加の可否についてお知らせ致します。申し込み後、何らかの理由で止むを得ず参加出来なくなった場合には、その旨速やかに連絡願います。交通機関のダイヤ改正等により集合時刻の変更があれば、参加申込者に連絡します。

IV. 雲取山登山について

日の出友の会主催の登山にご参加の皆さんから、雲取山への宿泊登山を企画して欲しい旨のご要望を戴いております。

そこで、健脚登山に複数回ご参加戴いた方を対象に、紅葉シーズン頃を目安に企画する方向で検討しております。詳細は日のハイ通信第7号以降でお知らせする予定です。ご期待ください。

V. 日のハイ通信バックナンバーについて

右の二次元コードからこの6号をはじめ、今まで発行済みの「日のハイ通信」をカラー版で閲覧可能です。



VI. 日のハイ通信についてのご意見は下記へ

Email : try.tie7@outlook.jp

日の出町ハイキングガイドの会会長石川剛宛

※今回「私と山との出会い」欄を設け、吉澤さんに書いていただきました。今後も続けて行く予定ですので、ガイドの皆様のご協力をお願いします。